閑人閑語

肉体労働者がいっぱい

● 猪飼 國夫 ●

● プログラミングは肉体労働

筆者はまだ世の中にオフコンやミニコンが跳梁跋扈していた時代に，オフコンに無償で付けるアプリケーション・ソフト50本程度を1本2万円前後で作るという仕事を，某オフコン会社から下請けしていたことがある．

プログラムといってもCOBOLライクな変な言語で書かれていたひな形を，オフコンが売れた客先の仕様に合わせて手直しし，客先が用意した試験データで動作を確かめて納品するだけであった．

楽な商売のようではあるが，けっこう手間がかかる上に納期はめちゃめちゃ短かったので，徹夜は当たり前というプログラマの人数と体力だけで勝負した肉体労働の仕事であった．

世の中には，通常のプログラミングやHDLの記述作業は肉体労働に過ぎない，と主張している人がいる．まったくもって同感である．この肉体労働論によると，替えがきく人間がやっている仕事はぜんぶ肉体労働だそうである．いやはや，日本中のほとんどのオフィスの中は肉体労働者の洪水である．

● 頭脳労働ができる人

本来，頭脳労働者を表すはずの用語であったSE（システム・エンジニア）という言葉は，いつのまにか単にプログラマを指すようになってしまった．これは，現実を考えると当然であろう．

世の中には，プログラマやSEなどの技能認定試験があるが，言わせてもらえば，単なる試験をもって替えがきかない水準のSEの認定ができると考える方がおかしい．難関といわれている技術士の試験でさえ，合格者のすべてが意味がある頭脳労働ができるかどうかは保証されていない．

よその世界で考えてみよう．たとえば芸術家や伝統文化の世界では，その頂点に立つような人物は単なる筆記試験や面接でその能力を判定して，名跡を継がせることができるか，ということである．この分野では試験などは，東京芸術大学などの学校に入るときの選抜の道具でしかない．また，これらの大学の合格者が将来必ず芽が出るとは限らない．

すなわち，試験では一般人より優れた能力があるということは判定できるが，替えがきかない頭脳労働をする人を選別することはできない．

● 新規のものが作れる人

でも，新しい概念を提供できるような人物は，たしかに頭脳労働をしている．TRON構想やその他，たとえ実際に世の中に残らなくても，今までにないような考えを出せる人は，SEと判断してもよい．

真のSEは客先の要望をまとめた仕様をもとに，もっとも迅速かつ安価に，性能や保守性を加味した回答案を作成できるような人物である．英語の語感でいうとアーキテクト（architect）である．この語源となっている建築の世界はまさにその通りであって，強度計算をごまかすような輩は，肉体労働しかしていない．

一見肉体労働の塊であるようなスポーツの世界でも，監督以外にサッカーの司令塔や野球の捕手のように頭脳労働を必要としているところがある．

また，たとえ伝統文化の頂点に立つ家元であっても，先人の道を正確になぞるだけで創造性がない人は，肉体労働をしているに過ぎない，と判断できる．

● 執筆も肉体労働

ではどうすれば連日の肉体労働から抜け出して頭脳労働の世界で生きていけるのであろうか．真の頭脳労働をやるには，多分に天性がものをいう感じがしないでもない．筆者のように普通に生まれて育った人間は，その人生のほとんどを肉体労働で過ごして，頭脳労働はちょっとその匂いを嗅ぐことで満足するのが，分相応であろう．肉体労働には定年があるが，頭脳労働には替えがきかないので定年は来ない，というのがこの主張の結論である．

ちなみに，このような雑文書きにも，肉体労働に属する清書作業を意味した筆耕という言葉を，本来の意味から外れて使う人がいた．田畑での作業に擬えているのだ．やはり，執筆も肉体労働の一種であると認識したほうがよいように思われる．

頭の中でのドカチン

いかい・くにお　博士（工学）